



# 大島分場トピック

# No. 302

(旧大島分場だより)

東京都水産試験場 大島分場発行  
〒100-0212 東京都大島町波浮港 18  
Tel 04992 (4) 0381 Fax 04992 (4) 0383  
ホームページ <http://www.fish.metro.tokyo.jp>

平成 16 年 12 月 14 日

## 消えてから 6 年、大島のヒロメは今

―― 南部から北東部にかけては回復基調、母藻移植の効果も ――

大島では、平成 10 年を境に、島の南部の一部の地域を除いて「ヒロメ (和名 アントクメ) の森」がみられなくなりました。それから 6 年経過した今年、島周りの 20 ヶ所でヒロメの生育状況を調べた結果、南部から北東部にかけては順調に回復していることが分かりました。一方、泉津の港では、試験場で実施したヒロメ母藻移植試験により藻場が回復してきていることが判明しました。

### ・地域により藻場回復に差

調査した 20 地点中、島の南から北東にかけて 6 地点では順調に回復していることわかりました (図 1)。このうち 5 ヶ所は自然に回復したものと考えられますが、泉津港については、試験場が実施した母藻投入により回復したものとされます。一方、北部から西側にかけての地域では、全く生えていないか、生えていても成長が悪く、回復が遅れていることがわかりました。

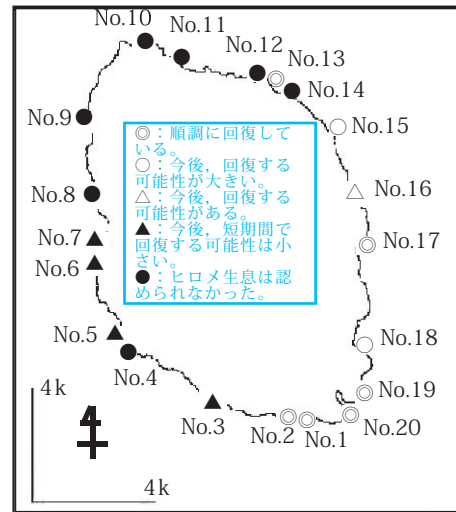


図 1 大島におけるヒロメの回復状況

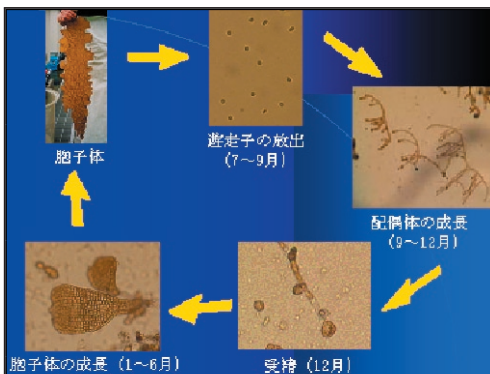


図 2 ヒロメ (アントクメ) の生活史

### ・藻場回復に向けた取り組み

水産試験場では、平成 11 年以降、「ヒロメの森」復活に向けた取り組みを始めています。その中で、ヒロメの成長は、1 月頃から新芽を出し、6 月には最大 60cm 位に成長し、7 月頃から 10 月にかけて、種 (遊走子) を出すことを明らかにしました (図 2)。

これらの調査で得られた知見は、藻場造成技術の開発に活かしています。泉津港 (No.13) の他、北部の基石浜 (No.10)、野増港 (No.7) では、種を出す準備のできた成熟した母藻を用い、海中に投入して藻場を回復する取り組みを行っています (図 3)。さらに、今年は、人工採苗と培養技術を開発し、ヒロメの種を植え付けた F R P 製の種板の移植による藻場造成技術開発にも取り組んでいます。

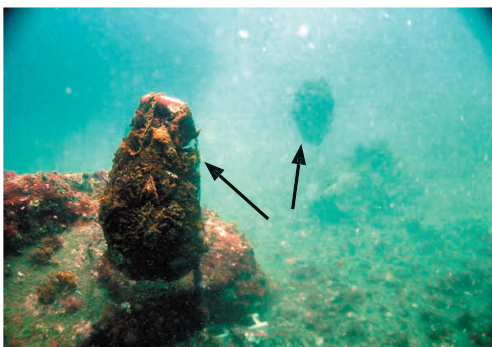


図 3 泉津港に投入した母藻 (矢印で示した網袋)